台風・大雨・風水害対策

１０月下旬

各作物共通

１　事前対策

海岸に接した水田では、台風の通過が満潮時になる場合に、高潮で海水が逆流するおそれがあるので、水門の管理には万全を期する。

２　事後対策

1)海岸近くで海水の浸冠水があった場合、直ちに排水させた後、淡水の掛け流しに努める。
また、潮風を受けたものは、速やかに淡水を散布して、塩分を洗い流す。

2) 塩害対策については県 HP 掲載ファイル「農地への海水の流入が農作物に及ぼす影響とその対策」（https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/12288/engai.pdf）を参照する。

3)人命第一の観点から、ほ場の見回り等については、気象情報を十分に確認し、大雨や強風が収まるまでは行わない。また、大雨が治まった後の見回りにおいても、増水した水路その他の危険な場所には近づかず、足下等、ほ場周辺の安全に十分に注意し、転落、滑落事故に遭わないよう慎重に行う。

麦

１　事前対策

麦播種予定のほ場は、落水口をあけ、滞水しないよう排水対策を講じておく。

２　台風通過後の対策

排水溝を設置して、積極的な排水対策を行う。ただし、作業機で練らないように注意する。

大　豆

１　事前対策

滞水により根腐れを生じやすいので、迅速な排水を図るため、排水路の点検、整備、清掃をしておく。

２　台風通過後の対策

1)滞水がある場合は、直ちに排水する。

2)倒伏した場合は、無理に立て直すと損傷が大きくなるので、立て直しは可能な株のみに止める。

茶

１　事前対策

滞水により根腐れを生じやすいので、迅速な排水ができるよう、排水路の点検、整備、清掃をしておく。

２　台風通過後の対策

排水溝が崩れた場合は、補修、整備を行い、排水に努める。

野　菜

１　事前対策

1)アスパラガス、ミニトマト、イチゴ等の施設野菜のハウスはビニールを下げ、ハウスバンドの締め直し(特に、妻面近くのバンド)等により補強する。

2)バンドレスのビニールハウスにおいても展張用補助バンドを用い、バタツキ防止と補強を行う。

3)露地野菜のうちナス、ピーマン、キュウリ等は支柱を補強するとともに、防風ネットを設置する。青ネギ等の軟弱野菜では、ほ場周りに防風ネットを設置する。栽培面積の大きいほ場では数畝毎に防風ネットを設置すると防風効果が高い。

4)露地野菜の出荷できるものは、できるだけ収穫し、台風通過後のキズ等による下級品、出荷不適物等の減少と着果負担軽減に努める。

5)ほ場内の溝、ほ場周りの排水溝を点検、整備等を行う。

6)露地野菜の播種、定植を予定しているほ場では、降雨前のほ場全体の耕うんはせず（耕うんする土壌に水を含み一層乾きにくくなる)、排水溝を設置して（約５ｍおきの溝、ほ場周りの溝、排水口

とつなぐ溝等）積極的な排水対策を行う。ただし、作業機で練らないように注意する。排水口周辺だけでも溝を掘ると排水しやすくなる。

2　台風通過後の対策

1)溝に水が長時間たまると根腐れが発生しやすくなるので、できるだけ早く溝にたまった水を排水する。

2)施設野菜（アスパラガス、ミニトマト、イチゴ等）は、急激な根の水分変化に野菜が対応できないため、台風通過後、極端な萎れが発生する。このため通過後、速やかに施設内の温度が高温にならないようサイドや谷を開放し（風がある場合は風上は少し、風下は全開）、適正なかん水、遮光ネットの被覆等を行う。施設開放が遅れ、ハウス内が高温になっている場合は、一度に開放しない。この状態で開放すると、成長点や葉から急激な蒸散がおこり葉や芯に焼けが発生しやすくなる。このような障害の回避対策として、ハウス内湿度を上げるためかん水を行ったり、動噴等で水を噴霧した後、風下サイドから徐々に開放する。

3)露地野菜は茎葉に付着した土を洗い流す。倒れたブロッコリーは、無理に起さないほうが良い。 極端な場合は、草勢が回復してから傷めないように起しても良い。

4)露地野菜は草勢回復のため、早めに被害果等の除去や収穫により、着果負担を軽くし、整枝、誘引、支柱直しを行い、葉面散布剤を散布する。茎葉の傷口から病害が発生するので早期に殺菌剤を用いて防除する。

5)被害拡大防止のため、早期に病葉や病株を除去し、ほ場外へ搬出することが重要である。そして、防除暦、防除指針に従い、適期防除に努める。降雨後は、葉や茎等が軟らかく、薬害が発生しやすいので、基準濃度の範囲の薄い濃度（例：2,000～3,000 倍の場合、3,000 倍）で散布する等、注意して薬剤散布を行う。

6)露地野菜を予定しているほ場では、排水溝を設置して、ほ場の乾燥に努める。ほ場に入りにくい場合は、排水口周辺だけでも溝を掘ると排水しやすくなる。

果　樹・オリーブ

1　事前対策

1)温州ミカン、カキ、キウイフルーツ、オリーブなどで成熟期に達している果実は事前に収穫する。

2)枝折れ・倒伏防止用等の支柱、棚や防風ネット、ハウスの補強を事前に行う。

3)迅速な排水を図るため、排水路の点検、整備、清掃をしておく。特に停滞水に弱い核果類、キウイフルーツは注意する。

2　台風通過後の対策

1)倒伏した樹は、速やかに立て直して支柱を行い、根際に土を入れて固める。また、被害の状況に応じて枝葉を剪定する。

2)枝が損傷した場合は、裂けた枝を切り直し、保護剤を塗布する。落葉が激しい場合は枝幹部に白塗剤を塗布する。

3)潮風を受けた場合はできるだけ速やかに（６時間以内）樹冠散水を行い、塩分を洗い流す。

4)下記の病害が発生しやすくなるので、必要に応じて防除を行う。

柑橘類‥‥‥‥‥黒点病
モ　モ‥‥‥‥‥‥せん孔細菌病
カ　キ‥‥‥‥‥‥炭疽病
キウイフルーツ‥果実軟腐病、貯蔵病害
オリーブ‥‥‥‥炭疽病
イチジク‥‥‥‥黒かび病

※ 防除はいずれも、農薬のラベルに記載されている使用方法を遵守すること。

花　き

1　事前対策

1)露地栽培では、ほ場の周りに排水溝を掘り、余剰水を排水できるようにしておくとともに、溝さらいを徹底しておく。また、フラワーネットを早めに張り、株の倒伏を防止する。既にフラワーネットを張っている場合は、支柱の補強を行う。

2)施設栽培では、ハウスの周りに排水溝を設け、水の浸入を防ぐ。

3)ハウスやほ場の周りに防風ネットを設置する。また、フラワーネットを早めに張り、株の倒伏を防

止する。既にフラワーネットを張っている場合は、支柱の補強を行う。
4)ビニールハウス等の施設栽培では、ハウスを閉め、強風の吹き込みを防ぐ。また、ハウスバンドの締め直しを行い、ビニールのバタツキによる破損を防止する。

2　台風通過後の対策

1)風が収まったら、できるだけ早く倒れた茎を起こして、茎曲がりを防ぐとともに、殺菌剤の散布を行い、黒斑病や褐斑病の蔓延を防止する。
2)茎葉に付着した土は、速やかに洗い落とす。
3)滞水すると、根の活性が低下し、養分吸収が悪くなるので、1000 倍程度の液肥の葉面散布を２～３回実施し、生育の促進に努める。
4)施設内が過湿の場合は換気扇により通気し、病害の発生を防ぐ。

畜　産

1　事前対策

1)畜舎や堆肥舎は、強い風雨に対処できるよう必要箇所の補修、補強を行うとともに、雨水の速やかな排出のため、周辺排水路等の点検、整備をしておく。家畜への被害のおそれがある場合には、状況に応じて家畜を避難させる等の適切な処置を行う。
2)搾乳施設等については、停電時の対応策として発電機の点検等を行う。
3)飼料畑は、雨水の早期排水ができるよう排水路等の点検と整備を実施する。
4)飼料及び燃料などについては、不測の事態に備えるため、家畜を１週間以上飼育するために必要な分量を確保しておく。保管場所は、浸水や土砂崩れを考慮して安全な場所で保管する。

2　台風通過後の対策

1)風雨により被害を受けた畜舎等は、再度の事故に十分注意して速やかに土砂の除去や洗浄、消毒を実施するとともに、敷料を交換して舎内の乾燥を促進する。飼料に雨水が混入した場合は、腐敗やカビの発生が懸念されるので、給与時には 十分注意する。
2)畜舎、牧柵、防鳥ネット等の施設に破損や汚染を確認したときは、補修、洗浄、消毒を行い、野生動物の侵入防止など防疫対策の徹底に努める。
当面は、飼養家畜の健康観察を通じて、異常の早期発見に努める。
3)へい死した家畜については、最寄りの家畜保健衛生所および農業共済組合と連携して適切な処理を行う。
4)倒伏等により生育の回復が見込めない飼料作物は、早期に刈り取ってサイレージ等に調製し、粗飼料を確保する。また、稲藁の収集計画を必要に応じて調整するとともに、作期や草種・品種 に　配慮して秋冬作の作付けを行う。